

令和3年度
水戸市子ども発達支援センター事業報告書



みとちゃん

令和4年4月

水戸市こども発達支援センター

目 次

1	職員構成	P. 1
2	事業内容	P. 1
3	療育指導委員会の活動について	P. 5
	(参考) 発達障害児（就学前）の連携機関	P. 6

1 職員構成

	所長	言語聴覚士	保育士	社会福祉士	事務	巡回訪問指導員	精神科医	臨床心理士
職員	1	1		1				
会計		1	5	1	1	2	1(嘱託)	1

※会計＝会計年度任用職員

2 事業内容

(1) 発達相談

社会福祉士を配置し、こどもの発達に不安を持つ保護者への相談支援を実施。相談者のニーズに応じ、臨床心理士・言語聴覚士などの専門職も相談支援に対応した。

相談・発達検査とも増加傾向にあり、福祉サービス利用に関する意見書の作成や福祉サービス利用に係る相談及び申請手続きを相談支援として実施した。

また、必要に応じて医療、保健、福祉、教育等関係機関との情報連携を図った。

ア 社会福祉士による相談件数

月 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
R3	19	19	35	29	36	32	21	38	33	28	24	34	348
R2	16	12	16	31	28	41	30	22	24	20	19	57	316
R1	25	27	22	25	19	28	35	27	34	23	34	31	330

イ 心理士による相談件数

月 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
R3	10	15	2	1	0	17	26	42	39	37	39	57	285
R2	20	28	38	20	32	32	42	35	38	27	30	28	370
R1	17	26	21	22	22	32	30	25	32	22	39	42	330

ウ センター利用者総数

月 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
R3	123	153	258	247	179	186	264	353	325	249	188	220	2,745
R2	70	87	153	209	199	253	278	246	220	184	193	238	2,330
R1	84	133	162	172	130	184	219	217	196	168	243	128	2,036

(2) 療育指導（個別・グループ）

保育士を配置し、こどもの発達に心配がある保護者と児童を対象に、親子通所による療育指導を実施。また、児童の発達特性や家庭状況に対応するため個別での指導も取り入れた。

ア グループの構成

- ・ぱんだグループ（3歳児，週2回）…3グループ
- ・こあらグループ（2歳児，週2回）…6グループ
- ・うさぎグループ（1歳児，週1～2回）

イ 通所児実数

年齢 性別	1歳児	2歳児	3歳児	計	割合(%)
男	8	24	10	42	72.4
女	2	6	8	16	27.6
計	10	30	18	58	100.0

ウ 通所児の紹介経路

紹介経路	人数(人)	割合(%)
水戸市保健所	25	43.1
公的機関	2	3.4
病院	3	5.2
知人・兄弟姉妹	1	1.7
在籍園(所)	8	13.8
インターネット等(自己検索)	19	32.8
計	58	100.0

エ 通所児の進路

進路	人数(人)	割合(%)
在宅	2	3.4
幼稚園	24	41.4
保育所(園)	12	20.7
継続通所	3	5.2
幼稚園プレ	1	1.7
児童発達支援	10	17.3
その他の療育	1	1.7
転出	5	8.6
計	58	100.0

(3) 言語相談・指導

言語相談は、言語発達や発音・吃音等の相談を中心に相談支援を行った。言語指導は、60分を基本とし、一人に対し月1～2回の頻度で実施した。

本年度より、就学前までの児童への言語指導を一貫して行うこととし、4・5歳児を療育指導教室、それ以外の児童を子ども発達支援センターで実施した。

・利用児延べ人数

年度		月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
R3	相談	7	7	15	15	21	7	10	14	14	13	7	11	141
	指導	28	32	43	36	47	54	64	67	67	64	56	58	616
R2	相談・指導	29	34	35	37	43	53	54	49	58	62	60	70	584
R1	相談・指導	17	18	21	20	18	22	29	26	42	34	44	49	340

(4) 療育指導教室（幼児のこぼ・こころの教室）

本年度から、幼児のこぼ・こころの教室は、教育委員会から子ども発達支援センターに担当が変わり、療育指導教室として行った。既存の3教室（浜田・常磐・緑岡）に加え、新たに五軒分室（旧五軒幼稚園）を設置し、4教室となった。また、五軒分室には、新たに言語聴覚士を配置し、知的・情緒の発達支援の教室以外に、個別の言語指導を行った。

月1回、分室職員が集まり、情報共有を行っている。

・利用延べ人数

年度		月												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
五軒	発達支援	相談	11	16	17	2	3	2	2						53
		指導	3	42	90	114	21	65	77	126	116	119	29	62	864
	言語指導	相談	6	7	12	1	3	2	4	2	1	2	1	1	42
		指導	23	40	64	70	32	52	60	64	60	44	26	30	565
浜田	発達支援	相談	5	11	1			2	4			2		25	
		指導	50	90	105	97	14	44	54	83	71	54	50	41	753
常磐	発達支援	相談	11			2					1			14	
		指導	60	77	89	82	14	63	65	77	41	67	44	49	728
緑岡	発達支援	相談	2	1		1		5	1	1	2	4	5	22	
		指導	34	59	56	54	19	43	54	60	57	51	42	48	577
すくすく	言語指導	相談			3	2	1	1	3					10	
		指導			5	13	14	19	19	25	20	19	15	16	165

(5) 関係機関との情報提供及び連携

ア 医療機関等への紹介

当センターの利用児が医療機関への受診を希望する場合には、紹介状を作成し情報提供を行った。また、必要に応じてケースカンファレンス等にも参加し情報連携を図った。

イ 保健所（地域保健課）健診事後教室への社会福祉士の派遣

保健所で実施している1歳6か月児健康診査・2歳児歯科検診後の事後教室（月1回開催）に社会福祉士を派遣し相談対応を行うなど連携を図った。

ウ 協働事業「LD、HSCの子どもが育つ環境を整える事業」

水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」において、NPO法人じゃあまいいかねっと、総合教育研究所、子ども発達支援センターで協定を結び、講演会、研修会、情報交換会等を実施した。

7/11に「学習に不安のある子の親のための情報交換会」をセンターのホールで実施。4名の保護者が参加した。

(6) 巡回訪問指導

水戸市在住の児童が在籍する幼稚園・認定こども園及び保育所等からの希望に基づき、水戸市中心身障害児療育指導委員会の協力のもと、当該施設を訪問し助言・指導を行った。

また、園からの希望により、巡回訪問指導員その他、臨床心理士や言語聴覚士を同行させた。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、巡回訪問指導を実施できない期間があったが、訪問園数、対象児数とも、前年度を上回っている。

・実績

訪問園数(実園数)	56か所
対象児数(実人数)	215人
訪問回数(延べ回数)	140回

	訪問園数(実園数)	対象児数(実人数)	訪問回数(延べ回数)
認定こども園	8	44	26
幼稚園	2	7	5
市立保育所	11	50	32
民間保育園	32	108	73
その他の保育施設	3	6	4
計	56	215	140

(7) 福祉サービス利用に関する相談及び情報発信

ア 障害児福祉サービスの相談・申請

児童発達支援、放課後等デイサービス等の利用に関する相談やサービス申請に係る業務を行った。また、児童発達支援及び放課後等デイサービスの事業所に関する情報発信を行っている。

イ 実績

R3年度申請件数 27件

(8) 講演会、研修会、座談会等の開催

センター利用の保護者のみでなく、広く市民に対して発達障害についての理解を深める事業として、リーフレットの配布を行い、講演会等の計画を立てた。令和3年度の講演会は、常磐大学院人間科学研究科水口進先生の「発達に心配のある子への対応」と茨城大学人文社会科学部金丸隆太先生の「こどもの姿を保護者と分かち合うコツ」を行った。当初、一般市民向けで公募したが、まん延防止等重点措置期間と重なったため、センター・分室の職員が聴講した。

また、親支援プログラムの一つである「ペアレント・トレーニング」講座を、臨床心理士を中心に、全10回開催した。参加者は6名（年度内で終了予定であったが、まん延防止等重点措置期間と重なったため、一部令和4年度に行う）。

令和3年度、初の試みとして、センターの専門職による座談会をセンターのホールにて実施した。

- ・第1回 「ことばと食事」(対象1・2歳児親子 保育付き)
講師：言語聴覚士 6月30日(水) 午前に2回実施(前半5組, 後半5組参加)
- ・第2回 「ことばと食事」(対象1・2歳児親子 保育付き)
講師：言語聴覚士 7月21日(水) 午前に2回実施(前半5組, 後半3組参加)
- ・第3回 「言葉と食事」「ほめるコツ」(対象1・2歳児親子 保育付き)
講師：言語聴覚士, 臨床心理士 10月21日(水) 午前に各1回実施
(前半4組, 後半5組参加)
- ・第4回 「入学までに育てておきたいこと」(年中・年長児の保護者 後半のみ保育付き)
講師：言語聴覚士 11月10日(水) 午前に2回実施(前半5名, 後半5組参加)
- ・第5回 「ほめるコツ」(対象4・5歳児親子 保育付き)
講師：臨床心理士 12月27日(月) 午後1回(6組参加)
- ・第6回 「ほめるコツ」「言葉と食事」(対象1・2歳児親子 保育付き)
講師：臨床心理士, 言語聴覚士 12月28日(月) 午前に各1回実施
(前半5組, 後半5組参加)

3 療育指導委員会の活動について

(1) 概要

水戸市心身障害児療育指導委員会（昭和 63 年度設置）は、関係機関及び学識経験者から市長が委嘱又は任命する 16 人の委員で組織し、発達につまずきや遅れ等のある児童やその保護者に対して、個々のニーズに応じて行うセンターの指導方法や援助方針に対して審議等を行うため開催している。また、専門部会委員によるセンター通所児観察や巡回訪問指導を実施している。

(2) 通所児観察会

専門部会の委員 4 名が担当。担当委員が 2 名ずつ 2 グループに分かれ、センターに通所している児童のうち、指導に特に困難を要する児童について観察及び担当保育士への指導等を行う。令和 3 年度は、県独自の緊急事態宣言、まん延防止等重点措置により開催せず。

(3) 巡回訪問指導

専門部会の委員 4 名が担当。『2 活動概要 (5) 巡回訪問指導』のとおり

(4) 会議開催

7 月に第 1 回水戸市心身障害児療育指導委員会全体会を開催。3 月開催予定の第 2 回全体会及び 2 月開催予定の専門部会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。

また、例年 5・9・2 月に開催していた巡回訪問指導担当者会議も、5 月の開催のみであった。

